

小學普通科第五讀本

平井正編
本居豐穎閱

圖書會館	
6	冊
8	冊
64	冊
一	冊
六册	三號
一	架
五	函

檢定合格本

K110.82
70a
5

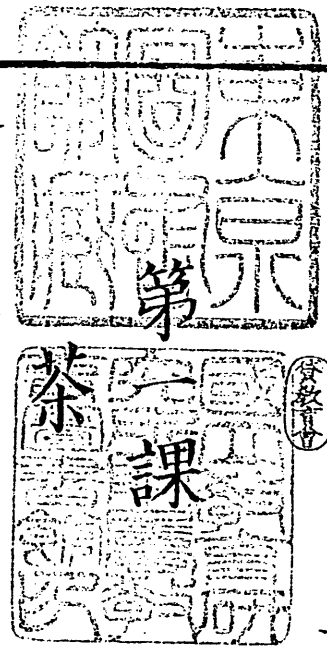
本居豐穎閣
平井正編

小學普通科第五讀本

東京書肆

二書房藏版

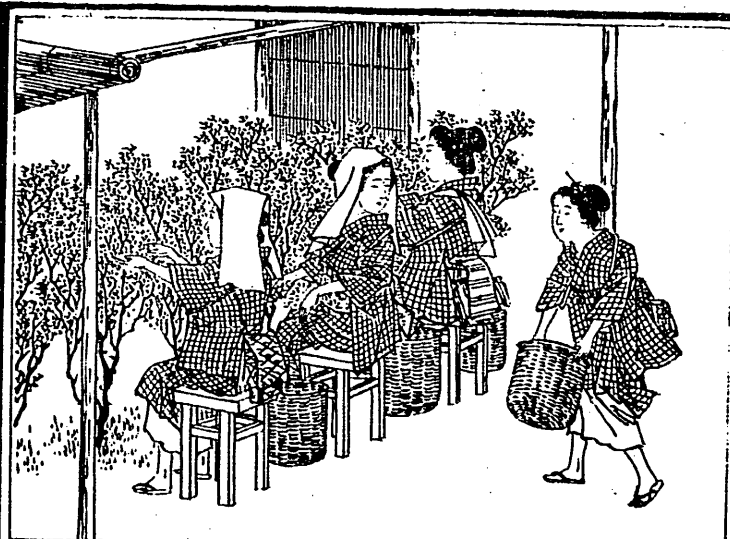
小學普通科第五讀本



本居豐穎
平井正編



茶ハ我國ノ名産ナリ。葉ハ「つば
き」ニ似テ小サク。花ハ白クシテ
形梅花ノ如シ。葉ヲ製シ湯ニヒ



夕セハ。芳香ヲ放
チ旨キ味ヲ生ズ。
國內所々ニ培養
ス。山城ノ宇治。近
江ノ信樂ノ産ハ。
最有名ナリ。
茶ハ水氣多キ地

ヲ忌ミ。赤土ニシテ砂石ノ雜リ
タル地ヲ好メリ。十一月ノ候ニ
種子ヲ下セバ。凡七十日ニシテ
發生シ。三四年ニ至リテ成木ス。
葉ヲ摘ムハ。五月ノ初ヨリ半マ
テヲ宜シトス。初二出ル新葉ヲ
一番芽トイフ。上品ノ茶ヲ製ス

ベシ

名産 芳香 旨_{クマ} 培養 放_{テツチン}

山城ノ宇治 近江ノ信樂 有名

水氣 赤土 砂石 雜_ル 種子

發生 成木 摘_メ 上品

第二課

よき友とやうにをれ

農人あり。一羽の鳩ををり。穀物ちりて

多の味つて。いゝをり

や志おし。鳩ハ

かくる屋小居ることを

好まぬ。好むはまよる屋

を飛出。うらむまよるか

るまよる。好むは。農人



ちやうどいふごとく。もよめぐ。常の如く畑う
出でて。耕作をせんとせし。畑をいへて。常
に。前畑。春の。一耕もする。あつうを
見れば。もよめ。是。孫。あつう。いへて。農人
の。あつう。いへて。あつう。いへて。あつう。いへて。
持ら。物。の。小。箱。よ。か。か。あつう。いへて。あつう。いへて。
ほ。いへて。あつう。いへて。あつう。いへて。あつう。いへて。

顔をあつう。いへて。あつう。いへて。あつう。いへて。
鉄砲。打ち。かけ。よ。た。た。つ。あつう。いへて。あつう。いへて。
あつう。いへて。あつう。いへて。あつう。いへて。あつう。いへて。
あつう。いへて。あつう。いへて。あつう。いへて。あつう。いへて。
あつう。いへて。あつう。いへて。あつう。いへて。あつう。いへて。
あつう。いへて。あつう。いへて。あつう。いへて。あつう。いへて。
あつう。いへて。あつう。いへて。あつう。いへて。あつう。いへて。
あつう。いへて。あつう。いへて。あつう。いへて。あつう。いへて。

農人 鳩 穀物 鳥屋 賊
耕作 荒れ 荷付 足跡 踏炮
小産 息 悪友

第三課

虎

虎ハ猛キケモノナリ。形ハ猫ニ似テ大キク。牙尖リ爪鋭シ。體ハ

黄色ニシテ黒キ斑文アリ。腹部ハ白クシテ雪ノ如シ。足ハ短ク。尾ハ長シ。山中又ハ廣野ニ居リ。動物ノ肉ヲ食トス。亞細亞洲ノ支那。印



度朝鮮ニハ。多ク産スレドモ。我
日本ニハ産セザルナリ。

猛^{クキシ}牙爪斑文 尖^{ハツ}銳^{クキシ}腹部

支那 印度 朝鮮

第四課

路程

路程ヲ量ルニハ。平地ニテモ山

路ニテモ。皆同ジ數ヲ以テ位ヲ
進ムルナリ。曲尺六尺ヲ一間ト
イヒ。六十間ヲ一町トイヒ。三十
六町ヲ一里トス。近傍各所ノ里
程ヲ示サンタメ。府廳縣廳ノア
ル地ニハ。里程元標ノアル所アリ。又
都會宿驛ニハ。里程標アリテ。元標

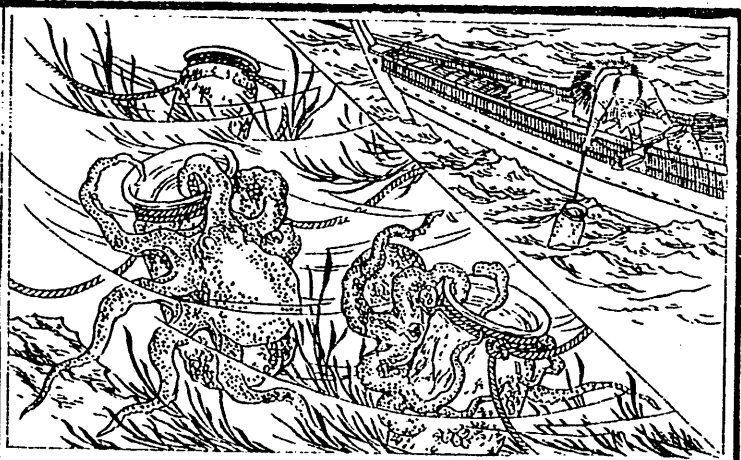
ヲ距ルノ里程ヲ記スモノアリ。之ヲ讀
メバ。其里數ヲ知ルコトヲ得ベ
シ。

路程 府廳 縣廳 元標 都會

宿驛 里程標

第五課

章魚



海中ノ漁船ハ。多ク
ノ章魚ヲ捕ヘタリ。
章魚ハ體軟ニシテ。
骨モナク殼モナシ。
肉脚八個ヲソナヘ。
脚ニハ俗ニイボト
稱スル吸盤アリ。游

グトキハ。背後ノ肉筒ヨリ水ヲ
噴出シ。八脚ヲ動シテユク。止ル
トキハ。吸盤ヲ岩石ニ附着シ。自
在ニ昇降セリ。口ハ肉身ノ下部
八脚ノ中央ニアリ。鰓ハ二個ノ
カタキモノヨリ成ル俗ニ「トビ」カラス
ト曰フ。章魚ヲ捕フルニ。簡易ノ

方アリ。絲繩ニテ數個ノ長キ壺
ヲツナギ。數時ノ間海底ニ沈メ。
章魚ノ其中ニ潛ムヲ考ヘテ。コ
レヲ引上ルナリ。

- 漁船
- 體軟
- 骨
- 殼
- 吸盤
- 鰓
- 背後
- 肉筒
- 岩石
- 附着
- 自在
- 昇降
- 絲繩
- 簡易
- 海底
- 潛マシ

第六課

紀元節

天晴きて空み雲なく。風清くし
 て波よ音あし。白鶴高く舞ひて
 世の静なほを報じ。梅花咲る人ど
 して春の長きを示せり。今日も
 是二月十一日ふして。即チ紀元節



ノ祝日なり。
 紀元節とい如
 何ある日ぞ紀
 元節とい年次
 を數ふるため。
 神武天皇の帝
 位よ即きたま

ふ歳を以て年代此紀元と定めたるものなり。

神武天皇ハ我邦初代の帝ふして。初日向國よ坐ま志しむ。亂賊所々よ起り。良民を害し。土地を掠め。暴逆日々小法の里あれハ。之を打鎮んとて軍兵を發し。河内

紀伊を巡幸して。悉く賊共を打平げ。進みて大和國ふ入り。終よ海内を統一して。天皇の位ふ即き。君臣上下の分を定めたまへり。

年次 年代 神武天皇 帝

亂賊 良民 土地 暴逆 軍兵

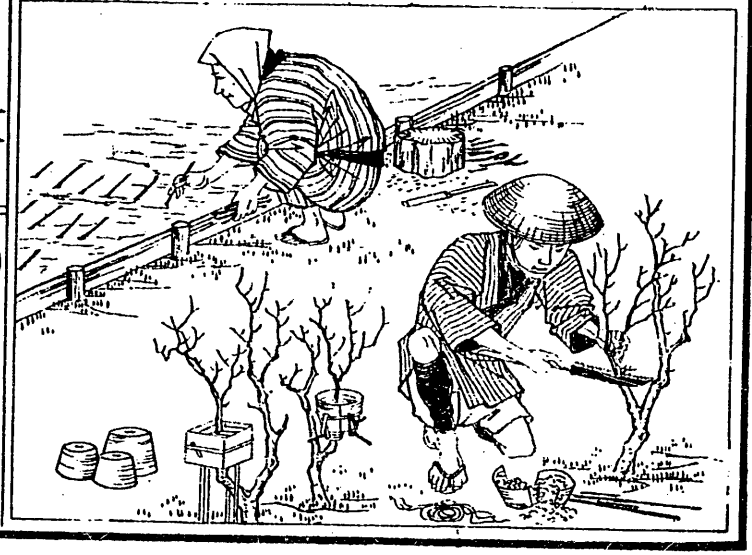
統一 害_{ハシ} 掠_ム 打鎮 君臣

第七課

とりき、さーき

草木ハ、多ク種子ヨリ。芽ヲ生ズル
モノナレドモ、其種類ニヨリテハ、とりき、
さーきヲナシテ、増殖スルコトヲ得ベ
シ。とりき、ハ、草木ノ枝ヲ曲ゲ

テ土中ニ埋メ。又
ハ土ヲ盛リタル
箱ヲ置キ。草木ノ
枝ヲ其中央ニ貫
キ。時々水ヲ注グ
トキハ、數日ニシ
テ根ヲ生ズ。根ヲ



生スルニ至レバ根下ヨリ之ヲ切取ルナリ。とゞきトハ。秋ノ末。又ハ冬ノ末ニ。草木ノ枝ヲ剪リ。水氣ヲフクメル土中ニサシハサムトキハ。數十日ニシテ根ヲ生ジ。一株ノ幹トナルナリ。柳、薔薇、葡萄ノ類ハ。此術ヲ施シ易シ。

増殖 一株 根 幹 柳 薔薇

葡萄

第七課

うとんげ

草木の枝葉。又ハ壁など。細き毛状のごときものを叢生し。その上端。花の蕾。似たるを此



を附し。日を経るよ志たがひて。
 下ふおつるふと
 あり。人ふきを優
 曇華と稱し。奇異
 の思ひをかきを
 の阿まども。是を
 植物ふあらば。ク

サカゲロウ」と名くる小蟲の卵
 なり。此蟲ハ。綠色よして薄き翅
 を著者。形ハ蜻蛉ふ似て小さし。
 幼蟲を。白色ふして。身小粗毛を
 被まきり。

綠色 毛狀 叢生 上端 蕾
 優曇華 奇異 翅 蜻蛉 幼蟲

粗毛

第八課

孝弟

應神天皇ノ御子ニ。大鷦鷯尊。菟
道稚郎子ト申ス御兄弟アリ。父
帝。稚郎子ヲ嗣君ト定メテ。崩御
シタマヒシ後。稚郎子ハ弟トシ



テ兄ニ超エルハ
道ニ背ケリトテ。
御位ヲ大鷦鷯尊
ニ譲リタマヘル
ニ。大鷦鷯尊モ。嗣
君ヲ定メタマフ
ハ。父帝ノ思召ナ

リ。子トシテ父ノ命ニ違フハ不
 孝ナリトテ。固ク辭シテウケガ
 ヒタマハズ。斯ク互ニ讓リテ。殆
 ド三年ノナガキニ及ベリ。此時
 朝廷ニ鮮魚ヲ獻ズルモノアリ
 シガ。稚郎子ニ捧グレバ受ケタ
 マハズ。大鷦鷯尊ニ捧クルモ亦

受ケタマハズ。往復スルアヒダ
 ニ。鮮魚ハ終ニクサリシトイフ。
 應神天皇 大鷦鷯尊 菟道稚郎子
 嗣君 固辭 違命 朝廷 鮮魚
 獻ズ捧グ往復 違フ

第九課

風

或人封狀ノ糊ヲ乾カサントシテ。火ヲ以テ之ヲ炙リシニ。熱ヲ受クルニ隨ヒ。次第ニ膨脹セリ。止メテ之ヲ冷所ニ置ケバ。漸ク縮少シテ舊ニ復セリ。此膨脹シタルモノハ何ガリヤ。是ハ封筒ノ中ニアル空氣ニシテ。火熱ヲ受

ケタレユエニ。膨脹シテ輕浮トナリ。封筒ノ外ニ出デントセシナリ。

風モ空氣ノ熱ヲ受クルヨリ起ルナリ。空氣太陽ノ熱ヲ受クレバ。輕クシテ上ニ昇リ。其跡ニ隙ヲ生ズ。此時寒冷ノ空氣。其隙ヲ埋メン

トシ。流レテ是ニ趣ク。此動搖ス
ル空氣ヲ名ヅケテ。風ト曰フ。

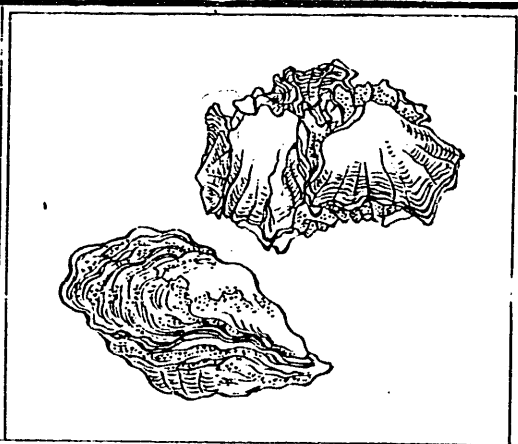
封狀 糊 乾 ヒスシ 炙 ヒカリ 膨脹 冷所

縮少 封筒 火熱 跡 隙 埋 メアミ

趣 ケキカ 動搖

第十課

牡蠣



貝類ハ。食シテ消化スルコトオ
ソク。滋養ノ効モ少シ。特リ牡蠣
ノ一種ハ。消化スル
コトモハヤク。滋養
ノ効モ亦多シ。其卵
ハ。初水中ニ浮游シ。
岩石ニ附着スレバ。身

體ヨリ石灰質ヲ出シテ甲殼ヲ構造ス。肉ハ食フベク甲殼ハ燒キテ石灰トナシ。壁ナドヲ塗ル。又一種「コロビガキ」トイフモノアリ。他物ニ附着セズ。他ノ貝類ノ如ク。海底ニスマナリ。

貝類 消化 滋養 浮游 附着

石灰質 甲殼 造ウツク 燒クキ 堊 壁

塗シマフ

第十一課

學藝ハ終身ノ寶

三人ノ少年アリ。一日窓下ニ集リテ談話セリ。甲曰。我家ニ巨萬



ノ金貨アリ。坐シ
テ衣食スベシト。
乙曰。我家ニ祖先
ノ戦功ニヨリテ。
賜フ所ノ名刀ア
リ。千金ヲ費スト
モ得ベカラスト。

丙曰。我モ亦寶ヲ有セリト。文字
ヲ記セシ紙二片ヲ示セリ。二少
年取リテ之ヲ見ルニ。一ハ小學
科ノ卒業證書ニシテ。一ハ中學
科ノ卒業證書ナリ。丙乃チ曰。兩
君ノ寶ハ身外ニアリ。失ハザル
コトヲ保チ難シ。我ノ寶ハ身内

ニアリ。終身モチフトモ盡ルコトナシト。二少年之ヲ聞キ。大イニハヂテ覺ル所アリ。

窓下 談話 巨萬 金貨 祖先

戰功 中學校 小學校 卒業證書

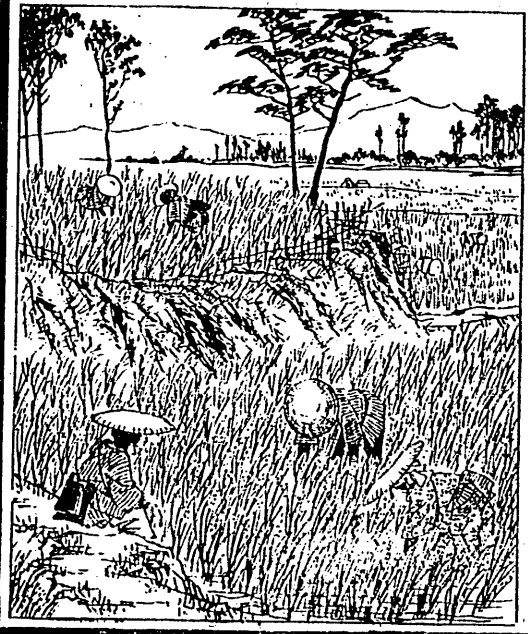
保ツクナシ難クキシ盡クキ終身 覺ハシラフ

第十二課

稻

稻よ二種あり。糯。粳といふ。糯ハ搗きて餅となし。又ハ菓子を製す。粳ハ炊しぎて飯とかきべし。吾人の日々よ食むるもの是なり。皆早稻。中稻。晚稻。の別あり。植附の時節ハ。其土地の氣候よ

りて、少しの差ひ何まごも。大抵、早稲も五月の初とし。中稲も五月の半とし。晩稲も六月の初とし。稲ハ多く水田小植うれども又畑地よ



植うるを此の陸稲と名づく。田畑も六尺四方を一步といふ。即一坪なり。三十歩を一畝といひ。十畝を一段といひ。十段を一町といふあり。

- 糯 粳 搗餅 菓子 炊飯
- 早稲 中稲 晚稲 植附 氣候

小學普通科 第五講本

陸稻 田畑 植エウ

第十三課

地理の話

我國ハ西南より東北ふ亘りて長く東西ハ甚短し。北よある大島を北海道と曰ふ。昔ハ蝦夷と呼べり。南の極端ふある。多く

の小島を琉球と曰ふなり。北海道も寒し。然れども。産物多し。住むふ利あり。琉球ハ熱し。冬日と雖氷雪を見ず。此二島の間ふけるを本州及四國九州と曰ふ。全國の中央よ帝都を奠む。東京と稱す。内閣のりて庶政を統ぶ。地

小學普通科 第五講本 二十二

方ふ府縣を置く。府縣ふ知事あり。たのく管内を治むるなり。

北海道 蝦夷 極端 琉球

帝都 内閣 庶政 統マダ府縣

地方 知事 管内 治ム

第十四課

鐵

此所を農家なり。坐敷ふ爐を開き。鐵瓶をかきたり。臺所よかまどのり。鍋と釜とをのせたり。庭ふ鋤と鍬とを置き。壁に鎌と庖丁とのり。是等の用具を。何より製したるをのと思ふや。皆鐵ふ

て製したるを此なり。

第十五課

鐵の製方

鐵を礦山より掘出したるも此にして其製方よよして其質を異ふ



す。鐵礦を熔して塊とかしあるものを鑄鐵と曰ふ。鐵瓶。鍋。釜のたぐひも之を鑄たるなり。鑄鐵を精鍊すれば。打延にふとを得。庵一之を軟鐵といふ。鋤。鍬の刃ハ之を鍛ひたるあり。軟鐵をよく鍛ふれば。硬くして脆き

鐵となる。之を鋼鐵と曰ふ。刀、劔、庖丁、鎌の刃ふハ之を用ふるなり。

農家 坐敷 爐 鐵瓶 臺所

鍋 釜 庭 鋤 鍬 壁 鎌

庖丁 用具 製方 礦山 掘出

鑄^{ヒスサ} 鑄^{レル}鐵 熟鐵 鋼鐵 柔軟

鍛鍊 硬^{クキキ} 脆^{クキキ} 延^{バブ}

第十六課

我意ヲ張ル者ハ身ヲ害ス

玉八。復助ト呼ベル二人ノ童子アリ。或日。學校ノ業ヲ畢リ。家ニ還ラントセシニ。教師止メテ曰。今歸路ニ狂犬アリテ人ヲ傷ク。

姑ク其鎮マルヲ待テト。玉八之
 ヲ聞キテ復ビ席ニ就ケリ。復助
 笑ヒテ曰。一匹ノ病犬何ゾ懼ル
 ルニ足ラントテ。馳セテ門外ニ
 出行キタリ。シバラクシテ。門外騷
 シク。助ケタマヘト叫ブモノアリ。
 衆人出デ、之ヲ見レバ。復助

所々ヲ噬マレ。血ニ染リテ呼吸
 モタエぐナリ。直ニ醫師ヲ招キ
 テ治療ヲ施シタレドモ。効ナク
 シテ遂ニ死セリ。

呼吸	足	醫師	招	懼	治療
	レルリ		ケクキ	レル	
復ビ	病犬	馳	騷	噬	
		セス	ダクギ	ム	
教師	歸路	狂犬	姑ク	鎮	
				レルリ	

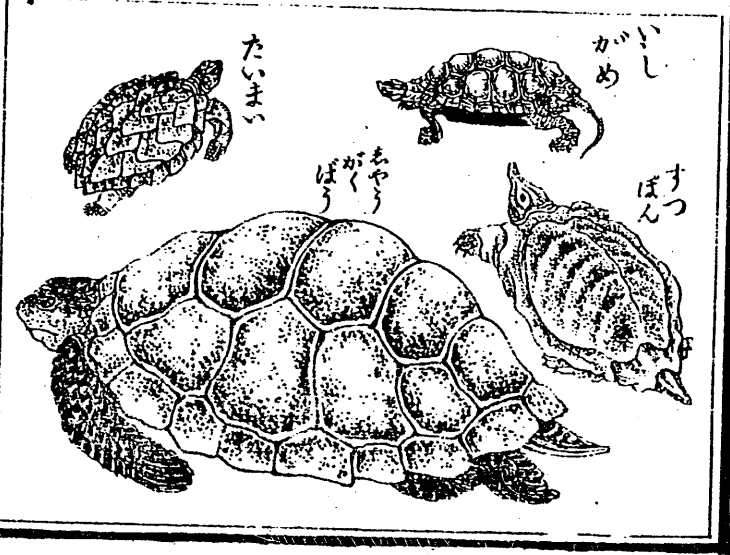
施セシヤ 助ケク

第十七課

龜類

龜ノ類ハ。淡水ニスムモノト。海
水ニ居ルモノトアリ。いしがめ「すつ
ぼん」ハ。川沼ニ生ジ。たいまい「志
やうがくばう」ハ。海ニ生ズ。體ハ

硬キ骨板ニテツ
ツミ。侵スモノア
レバ。頭尾四肢ヲ
チヅメテ。骨板ノ
中ニカクル。淡水
ニ居ルモノハ。四
肢ニ五ノ指アレ



ドモ。海水ニスムモノハ。四肢ハ
橈ノ形ヲナシ。水ヲ泳グニ便ズ。
スベテ卵ハ。水中ニ産マズ。地上
土砂ノ中ニ産メリ。日光ヲウケ
テ化生シ。匍フニ至リテ水ニ入
ルナリ。

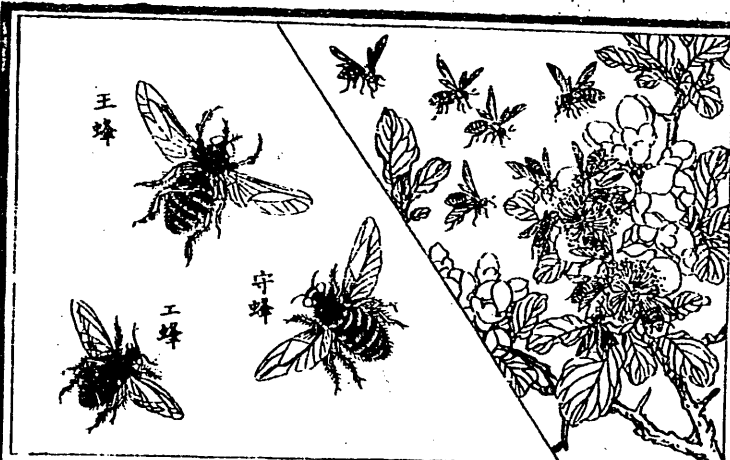
骨板 侵ヒシ頭 尾 四肢 五指

橈 土砂 匍フヒ

第十八課

蜜蜂

花の蕊よハ。甘き汁あり。蜜蜂ハ。
好みて此汁を吸ひ。巢よかへり
て。ふたゝび。六きを吐出し。蓄へ
て。他日の食料となすあり



蜜液を製するにハ。蜜蜂の巢を取り。碎きて細末とし。底小孔ある器に納ま。かわきたる桶の上におき。日光ふてらす。又ハ火にて温

むきハ。蜜液自ラ落ち。桶の中より下る。白蜜と稱す。是なり。

花蕊 甘汁 蜜液 吸マヒ 巢 吐クキ
 蓄ツ 食料 細末 底 小孔 納ル
 桶 落ツチ

小學普通科第五讀本

小學普通科第五讀本終

鮮齋永濯畫圖
河邨墨稼淨書

明治十八年五月十九日版
全廿一年十月廿二日印刷
權免許
訂正再版

定價十一錢

閱者 愛知縣土族 本居 豐 穎

編者 東京府土族 平井 正

發行兼印刷人 全 鈴木 吉 藏

全 埼玉縣平民 加藤 芳 太郎

製本兼發兌人 東京府平民 吉川 半 七

全 埼玉縣平民 長島 爲 一 郎



京橋區南傳馬町壹丁目十二番地
北足立郡鴻巣宿百廿五番地